令和５年度　羽田中学校だより

天 空 の 橋

令和５年６月２１日　６月号

目指す生徒像・・・
Heart
Never　Give　Up
Do　Our　Best
大田区立羽田中学校

「テスト勉強」について

今月のテーマは、２１日から始まる期末考査に向けて「テスト勉強」です。３年生は、進路に向けての大事なテスト。１年生にとっては、初めてのテスト。そのテストに向けての勉強について話をします。

まず、前提として「勉強はした方がいいよ」ということを確認しておきます。

勉強した方が「将来つらい状態になりにくく」「幸せな人生になりやすく」なります。もちろん、「幸せ」の感じ方は人それぞれです。「こうすると絶対幸せになる」「こうすると絶対幸せになれない」などということはありません。でも、「勉強する・しない」でその可能性は違ってくるのも事実です。その理由を二つあげておきます。

一つ目は、お金です。生涯賃金というのですが、高校を卒業してすぐ正社員として就職して６０歳までにもらえる給料・退職金は、２億５４００万円くらいが平均です。大学を卒業してすぐ正社員として就職して６０歳までにもらえる給料・退職金は３億２７００万円くらい。その差は６３００万円にもなります。家一軒分立てられるくらいの差があります。中卒での生涯賃金と高卒での生涯賃金は、あまり変わりがないように見えますが、実際には中卒はフリーターになったり、職を変えたりすることが多く、一つの会社で正社員でずっと勤めることは少ない状態です。ですから、実際にはもっと少ない収入になってしまいます。大卒と比べると、１億から１億５千万円くらい違うと言われています。

二つ目の理由が、プライドです。お金より、実際にはこちらの方がきついかもしれません。勉強して能力が高くなった方が、人を使う立場になりやすくなります。フリーターは自由ですが、基本的には人に使われる立場です。たとえば、４５歳になってガソリンスタンドでアルバイトをしている場合、３０歳くらいの正社員の店長に使われることになります。皆さんにとっては、１５歳下、今生まれたばかりの赤ちゃんに指示されて働くことになります。夢を追って、フリーターとして生きていくことは決して悪いとは思いません。でも、その分つらいこともあることを覚悟しなければいけません。

さて、その上で、テストに向けての話です。「テストで目標点を取る方法」です。実は、テストで目標点をとる方法は、原理的にはすごく簡単です。目標点をとるためには、「目標点がとれるまで勉強すればよい」これだけです。「勉強をする」、その結果「目標点がとれるか判断する」「いいえならばさらに勉強する」。これの繰り返しです。でも、実際には、目標点がとれないことがあることはあります。というか、ほとんどかもしれません。その原因の一つ目は、時間切れです。勉強をしてもテストまでに目標点がとれるようにならなければ、時間切れになってしまいます。この時間切れを防ぐためには、自分が目標点をとるためにはどのくらい前から勉強すればよいかがわかっていなければいけません。３年生くらいになると、目標点をとるために自分がどれくらい勉強すればよいかは見えてくるはずです。どうしても時間切れになるなら目標点を下げるしかありません。１年生は、定期テストが初めてですので、どのくらい前から勉強すればよいかはまだわからないかもしれません。今度の期末考査などを通して、ぜひそれが見えるようになってください。目標点がとれない原因の「その２」は、判断ミスです。７０点が目標で、勉強をしたあと「７０点とれる」と思ったのに、実際には４０点しかとれなかった。つまり、勉強したあと、本当は目標点が取れる状態にまでなっていないのに「とれる」と判断して勉強をやめてしまう場合です。「判断を間違う」理由で、もっとも多いのは、「実際にできるかどうかを確かめていない」場合です。勉強は、ただ勉強するだけでなく、自分でテ

ストをしてできるようになったかどうかを確かめなければ終わりにはなりません。自分でテストをしなければ、実際にどれくらいとれるかはわかりません。よくあるのは、テスト前に先生から試験範囲のプリントをやるように言われて、やったあと〇つけをして、正解を書いて終わりにしてしまう場合です。これだけでは、実際のテストのときに、本当に点数がとれるかどうかはわかりません。自分でテストをして、実際に点数がとれれば本番のテストでも近い点数がとれるはずです。自分でテストをすることは、「できるかどうかを確認する」以上に、勉強方法として重要で、テストをすると記憶に残りやすいことがわかっています。科学的に確かめられた効果のある学習方法の中でも、最も効果的な学習方法であることが証明されています。勉強をして頭の中に入れるインプットだけだと、時間がたつと思い出せなくなります。自分でテストをすると、インプットした内容の多くが思いだせるようになるのです。実際、アメリカの大学生で実験をした結果があります。大学生が歴史に関する学習をしてテストを受けます。試験勉強として、自分でいろいろな形でテストをしたとき、本番のテストでどのような結果になったかというものです。その結果、明らかに試験勉強として自分でテストをした方が、本番のテストの結果はよくなっています。面白いのは、テストをしたが答え合わせをしなかったグループです。自分でテストをしただけで答え合わせをしなくても、テストをしなかったグループの場合に比べて、3倍の効果をあげています。もちろん答え合わせをする方が効果があがっています。

21 日から、期末考査です。この話をするのは少し遅かったのではないかと思います。今回のテストで効果をあげるのは、もう少し早めに話す必要がありました。３年生は受験まであと１０ヶ月、１年生は中学校でのテストはまだまだこれから続きます。勉強ができるかどうかは、能力だけでは決まりません。勉強の仕方によって、結果は大きく変わってきます。勉強は、やっぱりできるようになった方がいいです。将来のために、少しでもよい方法を模索していってください。

体育祭

５月２７日、練習を積み重ねた体育祭が行われました。

羽田中の体育祭では、他の学校に負けない素晴らしいところがあります。

一つ目は、応援団です。何よりも素晴らしいと思っているのは、練習のときに先生たちが本当に口を出さず、その構成から応援の練習・指導まで３年生を中心に自分たちだけで行っていることです。そのため、生徒だけでつくりあげる〝力〟を見てもらうことができます。今年の体育祭もその〝力〟をしっかり見ることができました。

二つ目は、生徒が懸命に競技に向かう姿です。そして、応援団も含めて、他の人の一生懸命を笑う生徒がただ一人もいません。自分はやろうとせず、人の一生懸命を笑うほど、恥ずかしいことはありません。みんなが懸命に努力しそれを応援する姿をみることができます。体育祭当日も、学年を問わず、みんながみんなを応援し拍手する姿が見られ感動しました。

三つ目は、協力する姿です。体育祭は競技をすることだけでは成り立ちません。競技がスムーズにいくためには、係の役割をしっかり果たす。待機するとき、並ぶとき、周囲に合わせて動く。静かにするなど、生徒も含めた学校が組織運営されることが必要です。それを理解し、動いている中学生の姿を見ることができます。実際、体育祭の運営は非常にスムーズでした。溌剌と役割を果たしている中学生の姿は、清々しいものでした。

体育祭終了後、近隣の方に「素晴らしい体育祭を見せていただいて、ありがとうございました」とお礼を言われました。実際には、生徒の皆さんの力です。私から感謝をするとともに、みなさんを讃えたいと思います。

体育祭で、みなさんは「生徒がつくりあげる力」を示してくれました。この力を体育祭だけで終わらせず、日常生活でも発揮してくれることを期待します。

６月６日～７日、３年生は京都・奈良の修学旅行に行ってきました。生徒が立てた今回の修学旅行のスローガンは「信頼」。集団としての信頼を深めた思い出に残る修学旅行となりました。
修学旅行の「しおり」に寄せた文章を紹介します。

自由・権利と、信頼

今から４５年前、中学生であった私は皆さんと同じ京都・奈良への３日間の修学旅行に行った。ふりかえると、「楽しかった」という思い出は残っている。部屋で遊んだことも覚えている。でも、どこに行ったのか何を見学したのかの記憶は曖昧である。多くを覚えていない。むしろ、教員となり引率者で行った修学旅行の方が場所の記憶がはっきりとしている。

昭和の私の時代の修学旅行は、多くの事柄を教師が決めていた。３日間の行程のほとんどが、バスに乗って団体行動で寺社を巡っていた。自分たちで決めた行程は、「奈良公園内の班行動」と「清水寺から東山を抜けて知恩院までの班行動」のみだった。そして、その班行動の場所だけははっきりと覚えている。団体行動での行程は全く記憶がないのに、自分たちで決めた班行動での場所は、京都の街角での匂いや音、暑さまで記憶に蘇る。

なぜなんだろう。たぶん、自分で決めたこと、苦労したことの方が経験するときの感情が高まり、脳に焼きつくのだ。自由がなく、逆に言えば教師に決めてもらって、楽をした経験は記憶に残らない。記憶に残らなければ、古都の文化の学習もへったくれもない！

私の中学時代は、まだ教師が決めたレールに沿って行動することがベースの時代だった。それに反発・反抗する生徒も多く、校内暴力も多く生じた時代だ。でも、反発・反抗する生徒が多くいたことは、逆に「生徒に任せたらとんでもないことになる」ということにもなった。生徒に任せ自由を与えるための教師・生徒の相互の〝信頼〟が十分にはなく、悪循環が生じていたのだ。

さて、時代は変わり、昭和から平成・令和となった。今、生徒に求められていることは、**「将来自分たちで社会をつくりあげる能力」**であり、**「自分たちで考える力」**である。

修学旅行では、行程の多くは自分たちで決める自由がある。羨ましい。自分たちで決めての行動なのだから、私の時代より絶対的に記憶に残るし、学習にもなる。

今年度は、体験学習の内容・場所も皆さん自身が決める。苦労したとは思うが予約も行った。素晴らしい。先生たちが皆さんに、自由を与えても大丈夫だと「信頼」している証拠だ。

この状態を、来年度・再来年度も続けたい。自分たちで決める自由・権利があり、思い出に残るとともに、学習が深くできる状態をさらにつくっていきたい。

だからこそ、皆さんには「信頼」に答えてほしい。自由を与えても大丈夫で、むしろ学習が進むことを示してほしい。自由を与えたら安全・安心が脅かされ、先生たちが不安になる状態では自分たちで決定する自由は生じない。将来にもつながらず、後輩にそれを残すこともできない。自由・権利には、それを享受する能力が求められる。そして、生徒諸君にはそれを示す責任がある。また、皆さんには、それができる能力と実績があると思う。

結果として、「楽しくて仕方がない」「思い出に残る」「友情も深まる」「古都の文化の学習が深まる」修学旅行になることを期待している。